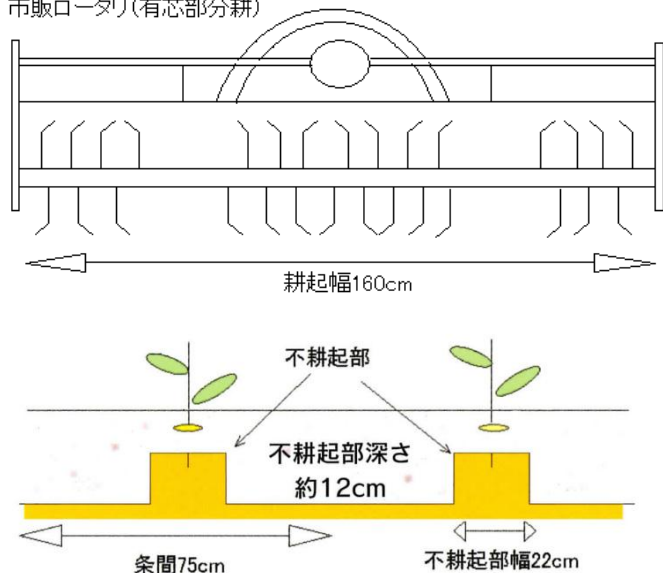


## 大豆の有芯部分耕播種栽培

## 目的と特徴

- 大豆の収量増収のためには、湿害等の影響を回避する必要があります。
- ロータリの播種床に位置する部分の爪を外して耕耘を行います。
- 畝間耕起部の排水促進による湿害回避と不耕起部の保水による乾燥害の回避が可能です。
- 不耕起部分が必要なので、事前耕起は不要で水田転換初年目のみの技術です。

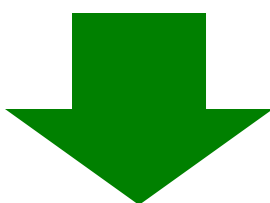
市販ロータリ(有芯部分耕)



ロータリの播種床に位置する部分の爪を外して耕耘



事前耕起しないで一工程による耕耘同時播種



東北で68ha導入  
(2009年)

**10a当たり労働時間 約7.3時間**

**収量 約200kg/10a**

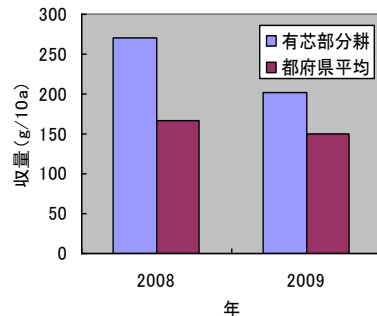
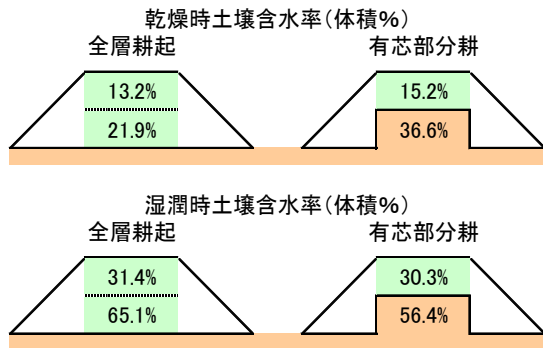
**60kg当たり費用合計 都府県平均の約70%**

## 成果

- 生育期間中の土壌水分が安定し、大豆収量は都府県平均よりも高くなり、60kg当たりの費用合計（2009年）は、都府県平均に比べて約70%に減少します。
- 事前耕起は無くなるが、発芽苗立ちの向上のために播種作業速度が低下するため、顕著な労働時間の減少はみられません。

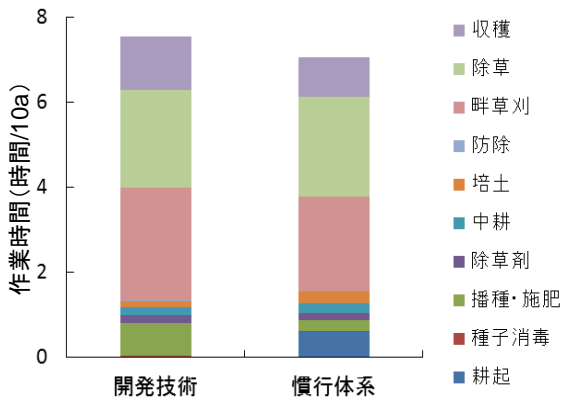
# 耕起法と作業機および作業速度との関係

耕起法	事前耕起	播種速度
慣行法 (2工程)	ロータリ 0.4~0.8km/h	ロータリまたはハロー 3~5km/h
有芯部分耕 (1工程)	—	ロータリ 正転:0.4~0.7km/h 逆転:0.8~1.5km/h

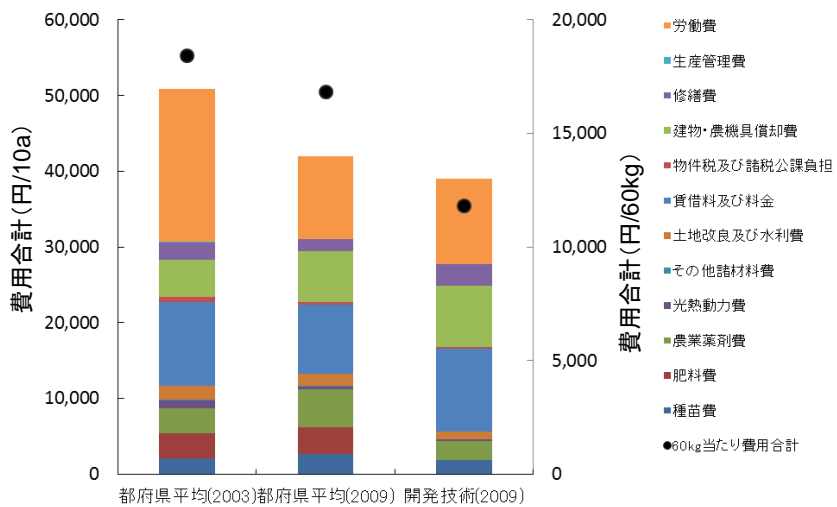


有芯部分耕では不耕起部分の含水率が安定(変動が小さい)

有芯部分耕(現地試験)による全刈収量と都府県の平均収量



開発技術の省力効果



開発技術の経済性評価

## 対象作物、普及対象

・大豆、全国

## 対象農家

・水田輪作農家

## 必要な道具

・市販ロータリーを改変(爪を外す)

## 関連HP(成果情報)

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/003843.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/003843.html)

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/018139.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/018139.html)

## その他

- ・耕起以外の管理条件(施肥、除草剤散布、中耕・培土等)は慣行同様に実施します。
- ・砕土性と作業速度確保にはアップカット(逆転)ロータリーの利用が有効です。